

## 防災担当者へのQ&A

**Q** 大きな揺れを感じたら、まずはどう行動すべきですか？  
**A** どんな時も身を守る行動が最優先です。慌てて外に飛び出さずに、大型家具や窓ガラスなどから離れ、机やテーブルなど頭や身体を守る場所に避難しましょう。

**Q** 地震で被害にあったら写真が必要と聞きますが？  
**A** 行政の支援を受ける際や保険の申請時等に、り災証明書（住家）や被災証明書（住家以外の不動産・動産）が必要な場合があります。それら証明を受けるために、修理や片付ける前に被害状況がわかる写真を撮影しておくことが大切です。

**Q** なぜ在宅避難が必要ですか？  
**A** 避難所での生活は、慣れない集団生活や環境の変化によって心身共に負担がかかりやすく、多くの避難者が集まると感染症拡大のリスクも高まるため、住み慣れた自宅での在宅避難に備えましょう。

**Q** 避難時に気をつけることは？  
**A** 落下物からのケガに備え、ヘルメット・帽子などで頭を守り、長袖や長ズボンを着用し、軍手や底の厚い丈夫な靴を着用しましょう。両手が見えるようリュックが便利！ また健康保険証がなくても、災害時の医療は受けられますし、本人確認書類があれば、キャッシュカードはなくても出金可能な場合もあります。避難した後に、貴重品等を無理に取りに帰ることはしないでください。

## 「阪神・淡路大震災」「東日本大震災」を体験した被災者の声を聴いてみよう

いつ起こるか分からない大地震に備えるために、今までの震災被害の教訓を忘れないことも大切です。被災者の声から防災対策の重要性を学びましょう。

### 東日本大震災被災者 加原裕士さん(当時・福島県在住)

#### 津波がくるとわかったら高い場所に避難！

揺れがおさまると家族やご近所と連絡を取り、一緒に山間部のほうへ逃げました。家に帰ってしまう人やベツを迎えに行こうとする人を見かけましたが、津波の可能性が高い場合、地震直後は絶対に家に戻ってはいけません。とても危険だと感じました。

#### 被災地以外の避難生活は現金がやっぱり大切

震災直後は公衆電話が連絡手段となったので小銭は重宝しました。また被災地から離れての避難生活では、必要な物を購入するため現金や通帳、印鑑、銀行カードがあると何とかなりました。

### 阪神・淡路大震災被災者 あゆみさん(当時・兵庫県在住)

#### 食料など備蓄の大切さを痛感した

ガス管が破損したのでガスの復旧が遅く、お風呂に入れません。3,4日後に近くの銭湯に行ったのを覚えています。食材は田舎からカップラーメンなどが届きありがたかったのですが、日が経つと少し飽きてきました。自宅の備えが大切だと改めて感じました。

#### 古い建物は倒壊する恐れあり！

震災後、補強されていない建物がすべて倒壊しているのを見て、建物自体の強度の大切さを知りました。現在の自宅をリノベーションした時に「ベタ基礎」の「筋交い追加」を工務店に強く要望しました。

#### 「ご近所」の心強さが身にしみた

何より大切なのは人とのつながり。ふだんからご近所の方とコミュニケーションを図り、仕事の時に被災しても子どもの安否をお互い連絡できるようにしておくとお助かります。



## 南海トラフ巨大地震が起きたらまちはどうなる？

起こりうる災害を知っておこう！



災害モード宣言発令や



津波が来るまで2時間ありますから一旦落ち着いてからでも充分間に合います

### 津波・浸水ハザードマップ



南海トラフ巨大地震が発生すると、北区内での想定震度は6弱、約2時間後には津波が到達します。命を守るよう避難してください。

浸水の深さ	浸水範囲
6-7階	10m~20m未満 (5階上~7階軒下浸水)
3-4階	6m~10m未満 (3階上~4階軒下浸水)
2階	3m~5m未満 (2階上~1階軒下浸水)
1階	0.5m~3m未満 (1階上~1階下浸水)
1階床下	0.5m未満 (1階床下浸水)



- ① 大きな揺れが長く続く  
高層階ほど大きく揺れ、家具が散乱。家具の転倒、外壁や窓ガラスの落下も
- ② 液状化現象発生  
道路に亀裂や陥没ができ、泥などが噴出し、停電や断水の可能性もあり
- ③ 火災発生  
漏電などにより火災が発生。木造家屋が密集する場所では延焼の危険あり
- ④ 津波到達  
区の西側に津波が到達。車や家具がけがきなどが押し流され津波の上で火災が起こることも
- ⑤ がれきと汚泥のまち  
浸水した場所にはがれきや不衛生な泥が残る
- ⑥ ライフライン寸断  
浸水した場所だけでなく、区全体で電や水道・ガスが使えなくなる

「液状化現象」ってなに？ 地震が起きた時に地盤が液体状になることを液状化現象と言います。この現象が発生すると、建物や電柱が傾いてしまったりマンホールが浮き上がったりする場合があります。

津波から避難しよう  
津波が来る可能性があると思ったら、津波避難ビルや最寄りのビル、マンションの3階以上など、できるだけ高い場所に避難してください。

河川レンジャー  
亀井伸幸さん

